

田んぼにはなぜ水をためるの?

みんなが毎日食べているお米は、田んぼで作られます。イネ(水稻)を育てる時には田んぼに水をはります。コムギやダイズなどは、水をはると根の呼吸ができなくなつて死んでしまいます。一方イネは、もともと熱帯の沿地に生息していた植物だったので、水をはった田んぼの方が元気に育ちます。イネの根には空気の通路があつて、葉や茎から根へ空気が運ばれてくるからです。

田んぼに水をはつてイネを育てるには、様々な利点があります。まず畑では、雨が降るとビロビロになつてトロクタ



を移植するので問題がありませんし、畑で種から育てるよりも田んぼで早く大きくなることができます。仮に雑草の芽が出たとしても、イネの傘の下で光がほとんどあたらないので、生育がおさえられます。

また、水の中は意外と暖かく、特に田んぼの水を深くするヒイネは保温され、幼い実を冷害から守ることもできるのです。

病害虫に対しても、畑では同じ場所に同じ作物を数

が畑に入れず、耕すこともできず、乾くまで種播きができなくなります。一方、田んぼでは、雨が降つても、そもそも水が張つてあります。

そこで、専門の機械を使って予定どおりに代播きや田植えすることができます。

次に、水がはつてあると雑草の種子が呼吸できなくなり、芽が出にくくなります。イネはあらかじめ育てた苗

栽培することができます。最後に、田んぼは環境にやさしい農業ができます。山から流れる養分豊かな川などの水を用水路から使つてじるので、豊富な栄養がたえず供給され、イネは養

分不足となることが少なく、元気に育ちます。もう一年栽培し続けると、土壤の病害虫が増加して、収量が低下します。でも、田んぼでは、水をはることで土壤の病害虫がすみづらくなるので、何年も続けてイネを栽培することができます。

このように、雨が多く、水量の水をためる機能があるので、洪水を防いだり、トンボやカエルといった生き物たちの大好きなみかも提供しています。



このように、雨が多く、水が豊富な日本の田んぼに稻を作るひとは、たくさんお米を作ることと同時に豊かな環境を作りにも役立つてじるのです。

